
SSニューススター

発行：日本アッセンブリーズ・
オブ・ゴッド教団
日曜学校部
第2号
2002年8月

日曜学校部の働きについて

部長 高口喜美男

全国諸教会の先生方、また、SS教師の皆様、あなたの教会のSSの働きと、あなたの尊いご奉仕がますます祝福されますように、心からお祈りいたします。

地域の行事や学校関係行事が盛んになっていく影響もあってか、SSをとりまく状況は決して容易ではありません。このような中でSSの衰退が語られる一方、「元気なSS」のニュースもあります。教団に報告される数字の統計の裏側で、時には重荷にあえぎながら、それでもSSの奉仕にたずさわることのできる喜びと成長のビジョンをもって日々労しておられるSS教師の皆さんの上に、神様の助けと祝福を心から祈らずにはおれません。

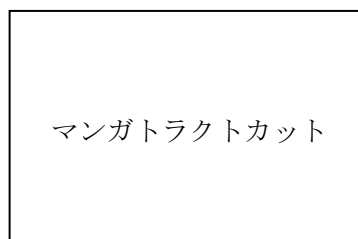
教団の日曜学校部も「わかえだ」、「こひつじ」の休刊、教団の「日曜学校教案」の利用率の低下等、困難な状況におかれています。教案のリニューアルという大懸案にも、いずれ取り組まねばなりません。構成と内容が充実している現教案の使い勝手をよくなるために、また、SS活動の多面的な補助教材を制作、あるいは収集し各教会SSに提供したいと思います。また、各教会SSの現場からのナマの情報も提供していきます。

部も各教会のSSも難しい問題に囲まれています。主イエスが愛された子供たちの救いのために、更に、教会の将来、ひいては教団の将来を担うべき魂を育て養うという大切な働きを効果的に推進するために、今後とも、共に祈りつつ励んでいこうではありませんか。皆さんからのご助言やご提案、あるいはご要望も部にお寄せ下さいますように、お願いいたします。以下に、現在の働きについてお知らせいたします。

1. 漫画トラクトの継続発行

先に発行した「教会に行こう」に続いての第2弾「教会があるよ」を発行いたします。藤井敬朗師（SS部員・前部長）原案、かつまとしを兄の絵によるものです。かつま兄はクリスチャン新聞に連載されている漫画「ルッチャン」の作者であり、その他、様々なジャンルで伝道のために活躍しているイラストレーター、漫画家です。私たちの教団の寝屋川福音キリスト教会の会員です。

アメリカ・アッセンブリー教団の伝道ファンドの適用をうけることができましたので無料で提供できることになりました。同封の見本をごらん下さり、期限までにお申し込みください。



2. SSニュースレター

今回は関東教区、東海教区、北陸教区、九州教区からの、教区及び地区のSS活動のニュースをご紹介します。紙面は限られていますが、それらの詳細については直接、報告者にお尋ね下さい。

3. 補助教材（イラスト等）の提供

先述しましたように、SS部の現教案の良さが生かされつつ活用していただくために、漫画トラクトをかいていただいた勝間兄およびその他の方々に教案に沿ったイラストを依頼しています。これとともに、諸教会のSSで用いておられる様々な教材情報を提供していただき、関係者のご了解を得て、これらをCD-ROM化して（必要な教会には印刷化して）提供できるよう、計画しています。

4. 「こひつじ」、「わかえだ」の復刊

いくつかの理由が重なって、現在、休刊状態が続いている両紙の復刊の可能性を求めていきます。

5. SS 献金ご協力のお願い

SS部の活動は教団会計からの交付金はなく、諸教会SSの献金（原則はSS席上献金の10分の1）によって支えられています。ご献金下さっている諸教会SSに、主にあって心からお礼申し上げます。しかし、現在、ご協力をいただいているのは、およそ40教会です。この数字は、教団SS教案の利用教会の減少、こひつじ、わかえだの休刊といった事情に加え、教団SS部の働きに対するご批判？のあらわれかとも受けとめています。どうか「声なき批判」を「声あるご提案、ご助言」に変えて下さるとともに、広く、教団全体のSS活動の活性化のために、より多くの教会SSがSS献金にご協力下さいますよう、心からお願い申し上げます。

(郵便振替口座 日本アッセンブリー教団 日曜学校部 00100-1-10877)

関東教区 日曜学校教師研修会の報告

関東教区日曜学校部部长 井桁久志


関東教区・日曜学校部は、毎年春分の日の日曜学校教師研修会を行ってきました。教師研修会は「日曜学校教授法」と「展望台から見る聖書」をテキストにしたSS教師を目指している人を対象にした養成講座と、すでにSS教師として奉仕をしている人たちを対象にした教養講座の二つに分けて、教師のそれぞれにニーズに合った講座をもってきました。

今年の研修会は来年から関東教区が二つに分かれるため、関東教区としては最後の日曜学校教師研修会となりました。最後ということで、養成講座はお休みにして教養講座に集中しました。教区日曜学校部は、実践的で教師たちに刺激を与え、日曜学校を躍動させ、現状を打破することを願い、「子供伝道の情熱」というテーマを掲げて、教師やスタッフだけに限らず子供伝道に重荷をもっている信徒にも呼びかけました。研修会には140名の教師や信徒が出席しました。

テーマにふさわしい講師として韓国から金興栄（キム・フンヨン）師をお招きすることができました。金師は韓国教育宣教教会の会長で、非常に子供伝道に重荷をもち、情熱を注いでおられる方で、韓国だけではなく、オーストラリア、フィリピン、台湾、日本などの国々で用いられている器です。金師の何とかして日本の子供の魂を救いたいという情熱は、自分から集会を計画し、集会のためのチラシを作り、自分で旅費から全ての経費をまかない、日本の子供の魂の救いのためには、どれだけ大きな犠牲を払ってもかまわないというほどのものです。時には実を結ぶことができない時もあったようですが、尚、あきらめずに日本に来て伝道をしておられます。今回も二人のスタッフと一緒に連れて来ていただきましたが、旅費は全て、先生自身が負担されて来られました。彼の子供伝道への情熱は、非常に熱く、今回講座に出席した一人ひとりにもその情熱が伝わり、大きな刺激を受けることができました。以下に簡単に講座をレポートしてみたいと思います。

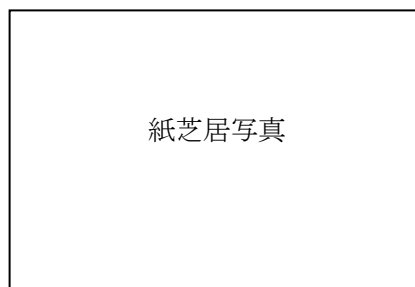
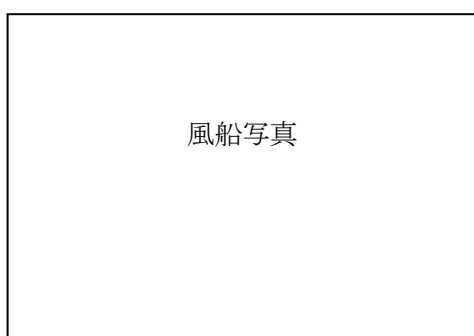
金師は子供伝道は理論を学ぶだけではなく、子供伝道を知っている人から学ばなければならないと語り、様々なアイディアを使いながらの伝道方法を示されました。金師は子供伝道に必要な様々な賜物をもっていますが、師は学んで得ていくことが必要であること、様々な犠牲（お金、時間、能力など）を払う覚悟が必要であることを強調されていました。日曜学校の現状が打破されるには、礼拝の変革が必要であり、特に賛美が変わることによって、礼拝が変わることを語られました。そのために、韓国教育宣教教会は、独自の子供賛美を作り、その賛美に合わせた振り付けを考えて、いかに子供たちが礼拝を楽しみ、主を賛美できるかを実践して下さいました。

今回日本語のCDを作って来て下さり、その賛美に合わせて、みんなが踊りながら賛美しました。最初は、みんなが恥ずかしがって、なかなか踊ることが出来ませんでした。教区長の仁井田先生や数名の教職者たちが、講壇に呼ばれて、「牧師先生が手本を示しましょう。先生たちがやらないとSS教師たちもしません」と言われて、みんなの前で教職たちが踊りながら賛美をするという珍事も起きました。



集会写真

午後からは、子供たちの救いの招きと決心には人形劇が効果であるということで、人形劇を実演して下さり、その後はみんなで人形を作りました。人形作りに続いて、子供たちとコミュニケーションをはかったり、子供たちを引きつけさせるための良い伝道方法として、風船伝道方法を実践していただきました。風船を様々な形に作るもので、刀やギターやミッキーマウスなどをアツという間に作ってしまい、みんなも驚いていました。講師と新宿に行った時のことですが、電車を待っている間に風船をふくらませて、そばにいた子供にあげたら、子供もその親も「すごい！」と驚いていました。大人の心でさえも捕らえられてしまうのですから、子供の心を引きつける効果は絶大です。



このようにして、一時間ほどのセミナーでしたが、あとの時間は全て教師たちに体験を通して、学ばせる方法でした。いかにして子供たちの心を捕らえるかを具体的に手本を見て、体験することができました。教師たちは、どのようにして、子供たちの心を捕らえればいいのか、またどうすれば日曜学校が躍進するか模索中です。そのような時期に、金興栄師を通して、多くの教師たちが何等かの刺激や示唆を受けることができました。何よりも金師の情熱とそれに伴う伝道姿勢を通して、教師たちは自分を見つめ直し、子供伝道への思いを新たにされた時となりました。関東教区の最後にふさわしい日曜学校教師研修会になりました。感謝して報告させていただきます。

尚、今回の講座に興味をおもちになった方はビデオに録画していますので、深谷福音キリスト伝道所の井桁までお問い合わせください。

東海教区 クリスマン子弟キャンプの報告

東海教区SS委員会 渋沢道忠

第14回東海教区主催のクリスマン子弟キャンプが3月25、26、27日浜名福音荘で開かれました。集会のテーマは「One Step More」で、より高きを目指して信仰の山に登ろうというものでした。テーマ聖句はヘブル6：1-13で、「このみ言葉をふまえて更なる上を目指しましょう。」と話しました。テーマソングは「もう一歩、もう一歩」他、SSにふさわしい歌を用いました。

期間中初めの日と最後の日に、聖会Ⅰ、聖会Ⅱとして、テーマに沿って奨励をしていただき、二日目は男子は朝から夕まで、R.R.飯盒炊餐をし、裏山に登り、自然観察をしたり、記念植樹をしたりしました。女子は午前中、楽しい学習と賛美、聖書ゲームをし、午後は年齢別にABCの3分級にし、Aはレザークラフト（ブックバンド）、Bは紙すきをして和紙作り、Cはレベルの高い折り紙に挑戦。どのクラスも見事な作品を沢山作りました。

活動風景写真

夜は星空の下で、恒例のキャンプファイヤーを囲んで、子供に親しみのある聖書のメッセージが語られました。祈りの賛美が周囲の山々にこだまして、とても幻想的なよい集まりでした。宿泊者は延べ121人でした。8月5、6、7日に開かれるサマーキャンプでの再会を楽しみに帰途につきました。

キャンプファイヤー写真

子供伝道の模索

北陸教区 福岡町キリスト伝道所 牧師夫人 三浦ミセ

教会が2000年6月に新しい土地に移転して間もなく、それまで教会に来たことのない子供たちが学校帰りに、「トイレかしてください」とか、暑い日には、「麦茶はありませんか」などと言って立ち寄るようになりました。そんな中、今年の秋ごろ、夕方暗くなってから、小学1年生の男の子と3年生になる姉とが、道に捨ててあって今にも死にそうな子ネコを抱いて、「この子ネコ、寒くて死にそうだから拾って来たのですが、教会で飼ってくれない？」と頼むのです。教会では犬やネコは全く飼うつもりはないので非常に困りました。けれども懸命になって頼む子供たちの目を見た時、そのまま帰すわけにも行かず、受け取って飼うことにしました。

ところが、からだが強っていたためか、その子ネコは1週間もしないうちに死んでしまい、子供たちは非常にかかりました。この時は命の尊さについて話すことができ良かったと思っていましたが、しばらくしてまた子供たちは、学校の広場に捨ててあったという子ネコを、拾って持って来ました。キリスト教会では命を大切にすると、子供たちは信じたようでした。私たちには教会で生き物を飼うのは迷惑なことと思っていましたが、主に委ねて飼うことにしました。

それからは毎日のように、子供たちが入れ代わりたちかわり、子ネコと遊ぶために教会に来るようになりました。学校帰りのバス停からは1kmもあるのに、わざわざ教会に来て子ネコと遊んで、バスに乗るために、また走って帰って行く子供もいます。クラスで噂になっているようです。

現在も子供たちは休校日以外ほとんど毎日、入れ代わりたちかわり違う子供たちが教会の中に入って、子ネコと遊んで行くようになりました。教会の中に入って来た子供たちには、帰ってから祈るために必ず名前と住所、誕生日などを書いてもらうことにしています。教会には子供用のトラクトを沢山用意してありますが、その子供たちにはあげません。もし家に持ち帰って見つかると、その子供は親に厳しく叱られ、次からは教会に立ち寄ることさえ出来なくなるからです。

とにかく、日曜学校には彼らは一度も来ませんが、学校の帰りには必ず幾人かは教会の中に入って子ネコと遊んで行きます。今後この子供たちに、どのようにしてイエス・キリストを知ってもらおうかと構想しています。——哀歌2章19節——

九州教区「SS教師の日」の報告

直方キリスト伝道所 生武のぞみ

2月21日に川尻キリスト教会を会場に、第3回SS教師の日を行いました。今年は講演会という形で、実際に教育の現場で働いておられるクリスチャン教師、力丸晃氏（北九州シオン教会信徒）をお迎えしました。氏は長い間中学・高校で教鞭をとっておられ、また不登校の子供たちとも関わって来られた事から、SSの教師たちにとっても、よい学びの時となりました。参加者は26名。

午前中は、牧師の子供として経験し感じた事から、午後は教師として生徒たちと関わった経験の中から話してくださいました。その中で、特に力強く語られたのは、子供たちと本音で向かい合うという事です。教師にとって都合の良い子供にしようとするのではなく、また自分の手に負えない子供たちに対してレッテルを貼る事なく、ありのまま受け入れるということです。頭や理屈では分っていても、自分たちの教会に来ている子供たちに対して、本音で向き合っていたらどうかと、教師自身が考えさせられる時となりました。

教会が子供たちにとっての本当の意味での安らぎの場、生き生きと活動する場となるためには、教師自身が主によって変えられなければならないと痛感しました。



報告を送って下さった教会に心からお礼を申し上げます。今後さらに多くの情報を提供していきたいと思っておりますので、各教会からの報告やアイデアをSS部にお送り下さると幸いです。

日本の子どもたちの救いを祈り、各教会のSSの働きのために祈ります。

教育局長・SS部長：高口喜美男 SS部：藤井敬朗 綾部裕子 和田佳士